

## 安全データシート

作成日: 2022年8月23日

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称  
推奨用途  
会社名  
住所  
電話番号

ニクロム酸アンモニウム  
試験研究用  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555(大阪・本社)  
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
CB1839

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類  
物理化学的危険性  
健康に対する有害性

酸化性固体: 区分2  
急性毒性(経口): 区分2  
急性毒性(経皮): 区分3  
急性毒性(吸入: 粉塵、ミスト): 区分2  
皮膚腐食性及び皮膚刺激性: 区分1  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性: 区分1  
呼吸器感受性: 区分1  
皮膚感受性: 区分1  
生殖細胞変異原性: 区分1B  
発がん性: 区分1A  
生殖毒性: 区分1B  
特定標的臓器毒性(単回ばく露): 区分1(中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓)  
特定標的臓器毒性(反復ばく露): 区分1(呼吸器)

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語  
危険有害性情報

危険  
火災助長のおそれ: 酸化性物質  
飲み込むと生命に危険  
皮膚に接触すると有毒  
吸入すると生命に危険  
重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ  
遺伝性疾患のおそれ  
発がんのおそれ  
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
臓器の障害(中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓)  
長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害(呼吸器)

注意書き

【安全対策】  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁衣類/可燃物から遠ざけること。  
可燃物と混合を回避するために予防策をとること。  
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。  
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
換気が不十分な場合は呼吸用保護具を着用すること。  
【応急処置】  
飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。  
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。  
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。  
皮膚(又は髪)に付着した場合: 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。  
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
直ちに医師に連絡すること。  
暴露又は暴露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。  
気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。  
口をすすぐこと。  
皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。  
呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       | <div>【保管】</div> <div>換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。</div> <div>施錠して保管すること。</div> <div>【廃棄】</div> <div>内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。</div>                                                                                                                                                                                                          |
| 3. 組成、成分情報            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 化学物質・混合物の区別           | 化学物質                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 化学名                   | ニクロム酸アンモニウム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 別名                    | 重クロム酸アンモニウム                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 化学式                   | (NH <sub>4</sub> ) <sub>2</sub> Cr <sub>2</sub> O <sub>7</sub>                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 化学物質を特定できる一般的な番号      | CAS RN: 7789-09-5                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 含有量                   | 98%以上                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 官報公示整理番号(化審法、安衛法)     | (1)-273 / 公表                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| その他                   | HSコード: 2841.50                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 4. 応急措置               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 吸入した場合                | 呼吸が困難な場合には、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。<br>直ちに医師に連絡すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 皮膚に付着した場合             | 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、又は取り去ること。<br>多量の水と石鹸で洗うこと。<br>直ちに医師に連絡すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 眼に入った場合               | 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。<br>直ちに医師に連絡すること。                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 飲み込んだ場合               | 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。<br>直ちに医師に連絡すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 5. 火災時の措置             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 適切な消火剤                | 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤(水素化炭酸塩を除く)、乾燥砂類                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 使ってはならない消火剤           | 炭酸ガス、水素化炭酸塩の粉末消火剤                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 特有の危険有害性              | 火災によって刺激性、腐食性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。<br>火災に巻き込まれると、燃焼を加速する。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 特有の消火方法               | 危険でなければ火災区域から容器を移動する。<br>消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。<br>容器が熱に晒されているときは、移さない。                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 消火を行う者の保護             | 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 6. 漏出時の措置             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。<br>直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。<br>関係者以外の立入りを禁止する。<br>作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。<br>適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。<br>密閉された場所は換気する。<br>環境への放出を避けること。<br>漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。<br>水で湿らせ、空気中のダストを減らし分散を防ぐ。<br>すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。<br>可燃物(木、紙、油等)は漏洩物から隔離する。 |
| 環境に対する注意事項            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 7. 取扱い及び保管上の注意        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 取扱い                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 技術的対策(局所排気、全体換気等)     | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。<br>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。<br>すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。<br>可燃物や酸化されやすい物質との混触を避けること。<br>飲み込まないこと。<br>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。<br>取扱い後はよく手を洗うこと。<br>皮膚との接触を避けること。<br>空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。<br>排気用の換気を行うこと。<br>ガスの吸入を避けること。<br>眼に入れないこと。<br>汚染された作業衣は作業場から出さないこと。                     |
| 安全取扱注意事項              | 『10. 安定性及び反応性』を参照。<br>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。<br>取扱い後はよく手を洗うこと。<br>汚染された作業衣は作業場から出さないこと。                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 接触回避                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 衛生対策                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 保管                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 安全な保管条件               | 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること<br>保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。                                                                                                                                                                                                                                                        |

|                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 容器包装材料            | 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。<br>保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。<br>可燃物及び禁忌物質から離して保管すること。<br>冷所、換気の良い場所で保管すること。<br>容器を密閉して保管すること。<br>施錠して保管すること。<br>ポリプロピレン                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 8. 暴露防止及び保護措置     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 許容濃度              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 管理濃度              | 0.05mg/m <sup>3</sup> (クロムとして)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 日本産業衛生学会          | 0.05 mg/m <sup>3</sup> (クロムとして、6価クロム化合物)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| ACGIH             | TLV-TWA 0.05 mg/m <sup>3</sup> (クロムとして、水溶性クロム(VI)化合物)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 設備対策              | この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 保護具               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 呼吸器の保護具           | 適切な呼吸器保護具を着用すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 手の保護具             | 適切な保護手袋を着用すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 目の保護具             | 適切な眼の保護具を着用すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 皮膚及び身体の保護具        | 適切な保護衣を着用すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 9. 物理的及び化学的性質     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 物理状態              | 結晶                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 色                 | 橙～赤色                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 臭い                | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 融点/凝固点            | 180°C(分解)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 沸点又は初留点及び沸点範囲     | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 燃焼性               | 不燃性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界 | 不燃性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 引火点               | 不燃性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 自然発火温度            | 不燃性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 分解温度              | 180°C(分解)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| pH                | 3.95(1%)、3.45(10%)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 動粘性率(粘度)          | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 溶解度               | 水: 360 g/L at 20°C                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| n-オクタノール/水分分配係数   | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 蒸気圧               | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 密度及び/又は相対密度       | 2.155 (25°C/4°C):                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 相対ガス密度            | 8.7 g/L:                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 蒸発速度              | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 10. 安定性及び反応性      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 反応性、化学的安定性        | 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 危険有害反応可能性         | 化学的危険性: 加熱すると爆発することがある。強力な酸化剤で、燃焼性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 避けるべき条件           | 燃焼性                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 混触危険物質            | 可燃物と混触禁止                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 危険有害な分解生成物        | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 11. 有害性情報         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 急性毒性              | 経口 : ラットのLD <sub>50</sub> 値として、22 mg/kg (雄)、19 mg/kg (雌) (ATSDR (2012))、55 mg/kg (雄)、48 mg/kg (雌) (EU-RAR (2005)) との報告に基づき、区分2とした。<br>経皮 : ウサギのLD <sub>50</sub> 値として、763 mg/kg (ATSDR (2012))、1,860 mg/kg (EU-RAR (2005)) の2件の報告がある。1件が区分3、もう1件が区分4に該当するので、LD <sub>50</sub> 値の小さい方に基づき、区分3とした。新たな情報源 (ATSDR (2012)) を追加し、区分を見直した。<br>吸入: ラットのLC <sub>50</sub> 値 (4時間) として、0.082 mg/L (雄)、0.045 mg/L (雌) (粉塵, ミスト) (ATSDR (2012))、0.2 mg/L (EU-RAR (2005)) の3件の報告がある。最も多くのデータが該当する区分2とした。 |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性      | ウサギに本物質を4時間適用した結果、グレード3以下の紅斑と浮腫がみられたが、反応は6日後にもみられたとの報告がある (EU-RAR (2005))。職業ばく露の報告で本物質を含む6価クロム化合物のばく露により潰瘍や瘢痕がみられたとの報告や (ATSDR (2012))、本物質は皮膚に対して刺激性を持つとの記載がある (HSDB (Access on December 2014))。また、具体的な試験報告ではないが、本物質を含む6価のクロム化合物について、腐食性を持つとの記載が多くある (EU-RAR (2005)、DFGOT vol. 3 (1992)、産業衛生学会 許容濃度の提案理由書 (1989))。以上の結果から区分1と判断した。なお、本物質はEU DSD分類で「C; R34」、EUCLP分類で「Skin Corr. 1B H314」に分類されている。                                                                                         |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 皮膚腐食性/刺激性の分類が区分1のため、ガイダンスに基づき区分1とした。なお、本物質は眼に対して刺激性を持つとの記載がある (HSDB (Access on December 2014))。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性     | 呼吸器: 日本産業衛生学会はクロム化合物として気道感作性物質「第2群」に分類している。この既存分類は本物質を明示していないものの、日本産業衛生学会 許容濃度の提案理由書 (1989) には、6価のクロム化合物は2価や3価のものより毒性が強いとの記載がある。また、クロム化合物は喘息を引き起こすとの記載がある (ATSDR (2012)、EU-RAR (2005))。以上から区分1とした。なお、本物質はEU DSD分類で「R42」、EU CLP分類で「Resp. Sens. 1 H334」に分類されている。                                                                                                                                                                                                                           |

|                |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 皮膚：            |  | 本物質を含むクロム化合物は、日本産業衛生学会で皮膚感作性物質「第1群」に分類されている（日本産業衛生学会許容濃度の勧告（2014））。この既存分類は本物質を明示していないものの、許容濃度の提案理由書（1989）には、6価のクロム化合物は2価や3価のものより毒性が強いとの記載がある。また、本物質に限定された情報ではないが、6価のクロム化合物について皮膚感作性をもつとの記載がある（EU-RAR（2005）、ATSDR（2012）、PATTY（6th, 2012））。6価のクロム化合物を用いたヒトに対するパッチテストにおいて、感作性がみられたとの報告がある（ATSDR（2012））。以上から区分1とした。なお、本物質はEU DSD分類で「R43」、EU CLP分類で「Skin Sens. 1 H317」に分類されている。                                                                                                                                                         |
| 生殖細胞変異原性       |  | 本物質のデータは、in vitro変異原性試験（Ames試験）における陽性結果（EHC 61（1988））のみであるが、水溶性Cr（VI）はin vivo生殖細胞変異原性を有する（EU-RAR（2005））との評価がされている。したがって、水溶性Cr（VI）である本物質にEU-RAR（2005）の評価を適用し、区分1Bとした。旧分類では区分2としていたが、上述のような理由により区分を変                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 発がん性           |  | IARCでグループ1（クロム（VI）として）（IARC（1990））、ACGIHでA1（クロムVI化合物として）（ACGIH（7th, 2001））、NTPでK（6価クロム化合物として）（NTP RoC（2013））、日本産業衛生学会で1（クロム化合物（6価）として）（日本産業衛生学会（1989））であることから、区分1Aとした。なお、EUでは2（EU（Access on Dec. 2014））となっている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 生殖毒性           |  | 本物質についてのデータはない。<br>しかし、クロム（VI）の生殖毒性については、本物質と同様に水溶性であるニクロム酸カリウム（CAS: 7778-50-9）、クロム酸カリウム（CAS: 7789-00-6）では区分1Bに分類される。したがって、本物質についても区分1Bとした。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 特定標的臓器毒性(単回暴露) |  | なお、産業衛生学会では許容濃度の勧告（2014）において、クロムおよびクロム化合物を生殖毒性第3群（暫定）（区分2相当）に分類している。しかし、許容濃度の勧告の分類は暫定期間中であるので採用しなかった。<br>なお、クロム（VI）の生殖毒性については、ニクロム酸カリウム、CAS: 7778-50-9も参照のこと。<br>このほか、EU CLP分類では「Repr. 1B H360FD」、EU DSD分類では本物質のデータは少ない。ヒトの経口経路で、本物質摂取（量は不明）により、悪心、重度の脱水、不規則呼吸、努力呼吸、口・咽頭の腐食性火傷、嘔吐、吐物中の血液、出血性下痢、小腸の出血がみられている（ATSDR（2012））。<br>実験動物では、ラットの本物質55 mg/kgの経口投与で、胃腸管粘膜の腐食、肺うっ血、ウサギの336-763 mg/kg 経皮適用で自発運動抑制、下痢、皮膚壊死、痂皮形成、皮膚浮腫・紅斑、ラットの0.029-0.045 mg/L吸入ばく露で気道刺激性、呼吸器障害がみられている（ATSDR（2012）、CICAD 78（2013））。実験動物でみられた知見はいずれも区分1の範囲の用量であった。 |
| 特定標的臓器毒性(反復暴露) |  | 6価クロム化合物によるヒト吸入ばく露で、気道刺激性、気道の炎症、鼻、胸の痛み、咳、呼吸困難、チアノーゼ、腎臓障害、ヒト経口ばく露で、嘔吐、下痢、胃腸管出血、肝臓壊死、腎臓の腎尿細管壊死、ヒトの高用量の偶発的又は意図的な摂取事例で、呼吸器、心血管、消化器、血液、肝臓、腎臓、神経学的に重度の影響が報告されている（ACGIH（7th, 2001）、CICAD 78（2013）、EHC 61（1988）、EU-RAR（2005）、ATSDR（2012））。<br>本物質は6価クロム化合物であり、6価クロム化合物の毒性知見を本物質の分類に使用可能と考えられる。消化管の所見については、局所刺激の影響として採用しなかった。<br>以上より、区分1（中枢神経系、呼吸器、心血管系、血液系、肝臓、腎臓）とした。<br>旧分類を変更した。                                                                                                                                                        |
| 誤えん有害性         |  | 本物質への反復ばく露影響が明らかな報告はヒト、実験動物ともない。しかし、本物質を含む一連の6価クロム化合物の有害性評価において、職業的に6価クロムにばく露されたヒトでは、呼吸器と眼に刺激性を生じ、その結果、鼻中隔に潰瘍・穿孔を生じるおそれがある（CICAD 78（2013））との記述があり、本物質も他の6価クロム化合物と同様に区分1（呼吸器）に分類した。<br>データ不足のため分類できない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 12. 環境影響情報     |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 生態毒性           |  | 短期: データ不足のため分類できない。<br>(急性)<br>長期: データ不足のため分類できない。<br>(慢性)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 残留性・分解性        |  | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 生体蓄積性          |  | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 土壌中の移動性        |  | 該当情報なし。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| オゾン層への有害性      |  | 当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 13. 廃棄上の注意     |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 残余廃棄物          |  | 産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 汚染容器及び包装       |  | 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。<br>空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 14. 輸送上の注意     |  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 国連番号           |  | 1439                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 品名(国連輸送名)      |  | AMMONIUM DICHROMATE                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 国連分類           |  | 5.1                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 容器等級           |  | II                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策 | 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。<br>食品や飼料と一緒に輸送してはならない。<br>重量物を上積みしない。                                                                                                                                                      |
| 国内規制がある場合の規制情報      |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 陸上輸送                | 消防法の規定に従う。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 海上輸送                | 船舶安全法の規定に従う。                                                                                                                                                                                                                                   |
| 航空輸送                | 航空法の規定に従う。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 応急措置指針番号            | 141                                                                                                                                                                                                                                            |
| 15. 適用法令            |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 化学物質管理促進法(PRTR法)    | 特定第1種指定化学物質                                                                                                                                                                                                                                    |
| 毒物及び劇物取締法           | 劇物                                                                                                                                                                                                                                             |
| 消防法                 | 第1類酸化性固体、重クロム酸塩類                                                                                                                                                                                                                               |
| 労働安全衛生法             | 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[クロム及びその化合物]<br>危険性又は有害性を調査すべき物[クロム及びその化合物]<br>特定化学物質第2類物質、管理第2類物質<br>作業環境評価基準<br>特定化学物質特別管理物質<br>有害物質(6価クロム化合物)<br>有害大気汚染物質／優先取組<br>酸化性物質類・酸化性物質<br>酸化性物質類・酸化性物質<br>疾病化学物質<br>第2種特定有害物質 |
| 水質汚濁防止法             |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 大気汚染防止法             |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 船舶安全法               |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 航空法                 |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 労働基準法               |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 土壌汚染対策法             |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 16. その他の情報          |                                                                                                                                                                                                                                                |
| 参考文献                | NITE-CHIRIP(製品評価技術基盤機構HP)<br>16615の化学商品(化学工業日報社)<br>職場のあんぜんサイト(厚労省HP)<br><br>記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。                                            |